

日本ソーシャル・イノベーション学会 第3回年次大会
持続可能な社会を拓くソーシャル・イノベーション



期 日：2021年11月28日（日）
会 場：インターネット会場（大会特設ウェブサイトおよび Zoom 会議室）
ホスト：広島修道大学・県立広島大学

日本ソーシャル・イノベーション学会

目 次

| | |
|--------------------|----|
| 第3回年次大会開催にあたって ... | 3 |
| 開催概要 | 4 |
| 参加者のみなさまへ | 5 |
| 研究発表 | 8 |
| ランチタイムセッション | 10 |
| 基調講演 | 11 |
| 分科会 1 | 13 |
| 分科会 2 | 15 |
| 分科会 3 | 16 |
| 分科会 4 | 18 |
| 国際交流セッション | 20 |
| 研究発表要旨 | 22 |

第3回年次大会開催にあたって

日頃より本学会の活動にご理解を頂き、誠に感謝申し上げます。

本学会は2018年に同志社大学で設立大会を開き、産声をあげました。その後の2019年に第1回、2020年の第2回（オンライン）と、同大学関係のみなさんのホストにより実行委員の方々とともに開催されてきました。ここまで短い間に学会としてのソーシャル・イノベーション研究の進展、蓄積がはかられ、学会員相互の研鑽と交流を深め、知見やネットワークを広げてまいりました。関係の方々には学会の立ち上げから大会開催まで、ご尽力いただいたこと、心から感謝申し上げます。

本学会は2021年度から新しく理事に加わっていただいた方々を迎え役員・執行体制が2期目となっています。第3回の年次大会については露木真也子理事（県立広島大学大学院経営管理研究科）とともに広島でホストを引き受け、大会実行委員会を立ち上げました。そして今回のテーマ「持続可能な社会を拓くソーシャル・イノベーション」とあわせて理事会での了承を得て開催する運びとなりました。

昨年からの日本国内における新型コロナウイルスの感染状況の推移を踏まえ、今年の大会もオンライン開催を前提として準備を進めさせていただきました。大会実行委員会では広島の地で開催する意義を発信するため、大会開催に先立って「広島エクスカッション・研究会」を10月16-17日（土・日）に実施いたしました。ゲストにお呼びした活動団体の方々による事例発表に対し、ご参加くださった方々からのご質問、対話など、たいへん意義深い会となりました。

さて、今回の開催テーマは「持続可能な社会を拓くソーシャル・イノベーション」と設定いたしました。地球温暖化や気候変動への対応は「待ったなし」の状況となり、人権や社会的公正の領域での問題も山積しています。さらにはコロナ禍も加わっており複雑なパズルを解いていかねばならない事態です。ここで人類社会の未来のありようを見出し、新たな社会経済のしくみを創出していく必要があるのではないかと考えます。そこで基調講演には「SDGs（国連持続可能な開発目標）」のシンボルを掲げ、講演や執筆、そして自らの暮らしでも実践しておられる川廷昌弘さん（博報堂DYホールディングス）に依頼いたしました。学会員の皆様とともに拝聴し、一緒に議論できますことを楽しみにしています。

また分科会、国際交流セッションについても、今期から新しく学会理事に加わってくださった方々を中心に、企画・準備を進めていただきました。

それでは、当日ご一緒できますことを楽しみにしております。

日本ソーシャル・イノベーション学会 第3回年次大会実行委員会
西村仁志（広島修道大学）

開催概要

大会テーマ： 「持続可能な社会を拓くソーシャル・イノベーション」

開催日時： 2021年11月28日(土) 9:30~21:30

主催： 日本ソーシャル・イノベーション学会(第3回年次大会実行委員会)

開催方法： ビデオ会議システム「Zoom」によりオンライン開催

大会特設ウェブサイト： <https://si-hiroshima.net>

(Zoomのミーティング情報は次ページに掲載しています。)

内容とスケジュール

| 時間 | 内容・登壇者 |
|-------------|--|
| 9:30~9:40 | 【開会あいさつ・諸説明】 |
| 9:40~11:45 | 【研究発表】(口頭・ポスター)(ブレイクアウトルームを選択) ルーム1 セッションA(9:40~10:40) セッションB(10:50~11:30) ルーム2 セッションC(9:40~10:40) セッションD(10:50~11:45) |
| 11:30~12:50 | 【ランチタイムセッション】(ブレイクアウトルームを選択) ルーム3「広島エクスカッション・研究会」の録画配信 ルーム4「マインドフル・トータル・リラクゼーション」(12:20~12:50) 依田真由美(一般社団法人京都マインドフルネスセンター) ルーム5~10 自由交流 |
| 13:00~14:50 | 【基調講演】「SDGsはローカライゼーション」 スピーカー：川廷昌弘(博報堂DYホールディングス) |
| 15:10~16:40 | 【分科会】(それぞれ別々のZoomミーティングを選択) 分科会1「農山村はソーシャル・イノベーションの源泉」 分科会2「ソーシャル・イノベーション/社会課題解決にはWicked Problemを考えよう！」 分科会3「地域共生社会開発の実践ーメンタル不調者の就労と働き方から考える多様性と共生社会」 分科会4「ファシリテーションで教育が変わる！地域が変わる！」 |
| 17:00~18:30 | 【参加者・学会員交流のつどい】 |
| 19:30~21:30 | 【国際交流セッション】 「ソーシャル・イノベーションの実践と教育：日本とスコットランドから考える」 |

参加者のみなさまへ

- 大会に参加される全ての方は、事前に参加登録が必要です。また特設 WEB サイト <https://si-hiroshima.net> の参加者専用ページにアクセスするにはログインが必要です。
パスワードは参加申込手続き完了者に大会ホストからメールにてお知らせしています。
- Zoom ミーティングルームの ID (9桁の数字) とパスコード (共通) は以下の通りです。
(参加者以外に漏らさないようにご注意ください)

全体会場 (分科会以外の全てのプログラムはこちら)

| | |
|---|----------------|
| https://zoom.us/j/98226325836 | |
| ミーティング ID: 982 2632 5836 | パスコード: nov28si |

分科会

| |
|--|
| 分科会1 「農山村はソーシャル・イノベーションの源泉」 https://zoom.us/j/86158541823 ミーティング ID: 861 5854 1823 パスコード: nov28si |
| 分科会2 「ソーシャル・イノベーション/社会課題解決には Wicked Problem を考えよう！」 https://zoom.us/j/95144725123 ミーティング ID: 951 4472 5123 パスコード: nov28si |
| 分科会3 「地域共生社会開発の実践 —メンタル不調者の就労と働き方から考える多様性と共生社会」 https://zoom.us/j/98024040963 ミーティング ID: 980 2404 0963 パスコード: nov28si |
| 分科会4 「ファシリテーションで教育が変わる！地域が変わる！」 https://zoom.us/j/91016278655 ミーティング ID: 910 1627 8655 パスコード: nov28si |

〈Zoom によるビデオ会議に参加するには〉

- Zoom (ズーム) とは、米国 Zoom 社が提供するビデオ会議・ウェビナー (ウェブセミナー) のためのアプリケーションです。PC やスマートフォン、タブレットなどの機材とインターネット接続が必要となります。
- アプリケーションは Mac、Windows、iOS、Android で無償提供されています。初めて Zoom を使われる方はテスト用 URL : <http://zoom.us/test> にアクセスしてみてください。テストは自分一人だけででき、このテストを通じてアプリのダウンロード、通信環境 (音声等) のテストができます。また概要がわかります。
- 参加に際し、ご自身で Zoom のアカウントを作成する必要はありません。(自分でビデオ会議を主催するためにはアカウントが必要です。)

- 以前にインストールした方は、こちらのサイトからセキュリティや最新機能などに対応した最新バージョンにアップデートしておく必要があります。
https://zoom.us/download#client_4meeting
- 視聴するだけならスマートフォン、タブレットでも可能ですが、発言したり、チャットに書き込んだりするには、PCの方が操作は容易です。
- 無線 LAN (Wi-Fi) でも接続できますが、一般に有線 LANの方が高速かつ安定しています。ポケット Wi-Fi やスマートフォンとのテザリング、帯域制限された低速回線では通信が不安定となり、映像が不鮮明になったり、音声途切れるなどのケースが発生することがあります。
- ノート PC は電源 (AC コンセント) に接続してお使いください。
- ノート PC にはたいていマイク、カメラが内蔵されていますが、デスクトップ PC の場合には別途カメラ・マイクなどを用意する必要があります。
- ヘッドセットあるいはマイク付きイヤホンをお持ちの場合は、それらの使用をお勧めします。
- 入室の際は、Zoom の画面上に表示される名前を「氏名(所属、もしくは都道府県名)」と設定してください。

※発表者は発表セッション時、氏名の前に【発表者】を入れる。

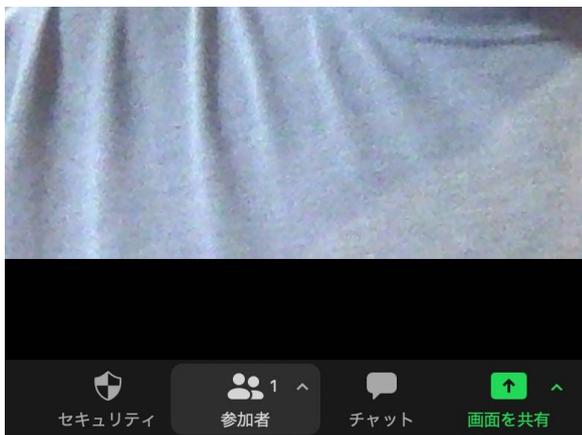
例: 【発表者】 広島花子(広島修道大学)

【Zoom 画面上の名前表示の変更方法】

写真①画面下のメニューから「参加者」をクリック

写真②画面右に現れる参加者リストの自分の名前にカーソルをもっていくと「詳細」から「名前の変更」が現れます。

写真①



写真②



例: 広島太郎 (県立広島大学)、 【発表者】 広島花子(広島修道大学) などと変更してください。

- 発表セッションは Zoom の「ブレイクアウトルーム」機能を用い、並行して別の小ルームを開きます。画面下の「ブレイクアウトルーム」から「ルーム 1 (セッション A、B)」「ルーム 2 (セッション C、D)」を選択して入室してください。
- ランチャタイムセッションでは、ブレイクアウトルーム機能を用いて各プログラムや自由交流ルームを選択していただけます。

- ブレイクアウトルーム機能は、参加者交流のつどいでも用いる予定です。

【ブレイクアウトルーム」のボタン】

写真③



- 研究発表や基調講演、分科会、国際交流セッションは参加者の皆さんの反応が見え、双方向のコミュニケーションができるよう、ビデオをオンで参加いただければと思いますが、視聴のみで参加をしたい方や、通信上の理由でビデオオフに設定されても結構です。
- 各セッションは内部記録用（非公開）として大会事務局もしくはコーディネーターが録画をいたします。Zoomの入室時や録画開始時に承諾確認のメッセージが出ますので、ご了解をお願いします。なお一部の分科会では話題提供者や参加者の承諾を得た上で第三者への配信をすることがあります。コーディネーターより説明を受けた上で可否についてお知らせください。
- 万一、オンラインでの発表に際してトラブル等 Zoom の諸機能、ビデオのオン・オフ、マイクのミュート、反応ボタン（拍手・いいね等）・挙手・チャット、表示される名前の変更方法、ブレイクアウトルームへの移動を試しておきましょう。
- 万一、オンラインでの発表に際してトラブル等が生じた場合は、本学会ならびに実行委員会ではその責任を負いません。特に、提示する資料での著作権、肖像権、個人情報等の取扱いに十分ご注意ください。
- PC の操作、インターネット接続、映像・音声等のトラブルはご自身で解決いただくようお願いします。
- オンライン参加にかかる通信料等、別途発生する費用については各自ご負担ください。
- 大会直前および開催中は、大会特設 WEB サイトにて大会事務局からの連絡事項をお知らせします。
<https://si-hiroshima.net>
- 当日緊急連絡先 070-8503-9904（大会事務局）

研究発表（口頭・ポスター）

発表要旨・報告論文・ポスターデータは特設サイト（要パスワード：nov28si）から閲覧、ダウンロードできます。

【口頭発表】 <https://si-hiroshima.net/?p=415>

【ポスター発表】 <https://si-hiroshima.net/?p=443>

【ブレイクアウトルーム1】

研究発表セッション A（9:40～10:40） 座長：服部 崇（京都大学）

| 時間 | 発表タイトル | 発表者（所属） |
|-------------|--|--|
| 9:40-10:00 | A-1: 内発的イノベーション地域づくりによる well-being 創発の可能性 | 松原 明美（一般社団法人こころ館） 井上 良子（世界人権問題研究センター） |
| 10:00-10:20 | A-2: ソーシャル・イノベーション・モデルとしての地域協働型サロンの実験 | 浜崎 英子（NPO 法人フラワー・サイコロジー協会） |
| 10:20-10:40 | A-3 (発表中止) | |

【ブレイクアウトルーム2】

研究発表セッション C（9:40～10:40） 座長：服部 篤子（同志社大学）

| 時間 | 発表タイトル | 発表者（所属） |
|-------------|---|--|
| 9:40-10:00 | C-1: 社会変化の担い手としてのローカルスーパーマーケットの可能性－兵庫県ヤマダストアの事例－ | 依田 真美（相模女子大学社会起業研究科） |
| 10:00-10:20 | C-2: 地域と移住者の関係の質的改善にむけて-佐渡島の取り組み | 両宮 隆三（Lane 株式会社）・ 後迫 彰（シナジーマーケティング株式会社）・ 谷田 泰郎（ことのは研究所）・ 佐々木 淳（旋律デザイン研究所） |
| 10:20-10:40 | C-3: 地域に根差したソーシャル・イノベーションとは -岡山の歴史を事例として- | 青尾 謙（岡山大学） |

【ブレイクアウトルーム1】

研究発表セッション B (10:50~11:30) 座長：八木橋 慶一 (高崎経済大学)

| 時間 | 発表タイトル | 発表者 (所属) |
|-------------|---|--------------------|
| 10:50-11:10 | B-1: 世界農業遺産認定地域における SDGs 学習プログラムー「大崎耕土 SDGs クエスト」ー | 大和田 順子 (同志社大学) |
| 11:10-11:30 | B-2: 進化型アグリソーラー活用によるソーシャル・イノベーションの考察 | 垣本 隆司 (アント・ラボ合同会社) |

【ブレイクアウトルーム2】

研究発表セッション D (10:50~11:45) 座長：島岡 未来子 (早稲田大学)

| 時間 | 発表タイトル | 発表者 (所属) |
|-------------|--|--------------------------|
| 10:50-11:10 | D-1: 子どもたちと比較する「環境」の多元性-カナダ先住民クリングットに学ぶオンライン学習を通して- | 飯塚 宜子 (京都大学東南アジア地域研究研究所) |
| 11:10-11:45 | D-2*: 砂場の今日的価値の再構築に関する実証的研究 | 笠間 浩幸 (同志社女子大学) |

D-2*はポスター発表 (35 分間)

発表者のみなさんへ

- 口頭発表は座長の進行で 1 題 20 分 (発表 12 分、質疑 5 分、ルーム移動時間 3 分) で進行します。ポスター発表 (35 分間) は 10 分程度で説明の後、質疑応答です。
- 発表者は Zoom の画面上に表示される名前を発表セッション時、氏名の前に【発表者】を入れてください。(P.6 を参照) 例:【発表者】 広島花子(広島修道大学)
- 発表者は各発表セッションの 3 分前には Zoom ミーティングルームに入室し、座長の指示でマイクとカメラ (ビデオ) をオンにして音声と映像のチェックをしてください。
- 資料は画面共有機能を用いて提示してください。
- 発表者は、それぞれのセッション (A~D) が終了するまで、会場に待機してください。

参加者のみなさんへ

- 参加者は Zoom の画面上に表示される名前を「氏名 (所属、もしくは都道府県名)」と設定してください。(P.6 を参照)
- マイクをオフ (ミュート) にして視聴してください。(カメラのオン、オフは自由です。)
- 口頭発表の質疑応答は座長の進行で行います。チャットへの書き込み、もしくは挙手機能を用いカメラ、マイクをオンで発言してください。
- ポスター発表 (35 分間) は最初の 10 分程度で発表者から説明があります。以後は出入り自由で発表者と直接質疑応答、ディスカッションを行ってください。

ランチタイムセッション

ブレイクアウトルーム3

「広島エクスカーション・研究会」の録画配信（11:30～12:50）

■Day2（10月17日開催）／Machi・Goto（広島市西区）

「学び・つながる『ひろしまジン大学』の取り組み」（11:30～）

平尾 順平（NPO 法人ひろしまジン大学 代表理事）

資料 PDF→ <https://si-hiroshima.net/wp-content/uploads/2021/11/hirao.pdf>

「学びを通じて持続可能な世の中に」（11:51 ころ～）

河野 宏樹（NPO 法人これからの学びネットワーク 代表理事）

資料 PDF→ <https://si-hiroshima.net/wp-content/uploads/2021/11/kono.pdf>

「人と人、人と社会、広島と世界をつなげる」（12:08 ころ～）

安彦 恵里香（ソーシャルブックカフェ「ハチドリ舎」店主）

資料 PDF→ <https://si-hiroshima.net/wp-content/uploads/2021/11/abiko.pdf>

モデレーター：山口洋典（学会理事・立命館大学）

Day1 は資料のみ掲示します

■Day1（10月16日開催）／イノベーション・ハブ・ひろしま Camps（広島市中区）

「広島県のイノベーション推進政策について」

長谷川 達也（広島県商工労働局イノベーション推進チーム）

資料 PDF→<https://si-hiroshima.net/wp-content/uploads/2021/11/hasegawa.pdf>

「中心市街地活性化プロジェクト『カミハチキテル』について」

今田 順（一般社団法人 地域価値共創センター）

木原 一郎（広島修道大学国際コミュニティ学部准教授）

資料 PDF→<https://si-hiroshima.net/wp-content/uploads/2021/11/imada.pdf>

ブレイクアウトルーム4

「マインドフル・トータル・リラクゼーション」（12:20～12:50）

依田真由美（学会員・一般社団法人京都マインドフルネスセンター）

お昼休みのひととき、30分間のかんたんな身体ほぐしとリラクゼーションタイムです

ブレイクアウトルーム5～10

「自由交流」（11:30～12:50）

複数のブレイクアウトルームを設けておきます。昼食もぐもぐ、情報交換、紹介など自由にお使いください。

基調講演「SDGs はローライゼーション」

★スピーカー

川廷 昌弘 (かわてい まさひろ)

株式会社博報堂DYホールディングスCSRグループ推進担当部長



プロフィール

兵庫県芦屋市生まれ。1986年博報堂入社。テレビ番組「情熱大陸」の立ち上げに関わる。地球温暖化防止国民運動「チーム・マイナス6%」でメディアコンテンツを統括。現在はSDGsに専従。外務省や内閣府のSDGs関連事業などを受託。環境省SDGsステークホルダーズ・ミーティング構成員。グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンSDGsタスクフォース・リーダー。神奈川県顧問（SDGs推進担当）。鎌倉市、小田原市、茅ヶ崎市、相模原市のSDGs推進アドバイザーなど委嘱多数。また、公益社団法人日本写真家協会の会員として「地域の大切な資産、守りたい情景、記憶の風景を撮る」をテーマに活動する写真家でもある。

メッセージ

大会テーマ「持続可能な社会を拓くソーシャル・イノベーション」に寄せて
環境・社会・経済の好循環を作り出そうとするSDGsはブーム化し、「アヘン」だと言われていま
す。「成長の限界」から半世紀が経ち、大人たちは次世代を裏切り続け、いい大人になったわたした
ちが今や次世代から厳しい視線を浴びています。いま大切なのは、個人がもっと主体的に発言し行動
できる創造性ある社会を作ることであり、それがソーシャル・イノベーションへの期待ではないかと
思います。（川廷昌弘）

★進行・コーディネーター

金田 晃一（かねだ こういち）

株式会社 NTT データ 総務部サステナビリティ担当 シニア・スペシャリスト）
学会理事



プロフィール

1987年慶應義塾大経済学部卒業、1993年レディング大学大学院修士課程（多国籍企業論）修了。ソニー渉外部通商政策課、在日米国大使館経済部通商政策担当、ブルームバーグテレビジョンのアナウンサーを経て、1999年よりソニー（再入社）、大和証券グループ本社、武田薬品工業、ANAホールディングス、NTTデータの5社にてCSR/ESG経営の推進に取組み、約40のNGO/NPOとの協働プログラムを立ち上げる。内閣府「新しい公共」円卓会議構成員、経団連社会貢献担当者懇談会座長、慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科非常勤講師等を歴任し、現在は、日本ソーシャル・イノベーション学会理事、広告電通賞SDGs特別賞の審査委員長を務める。論考に「SDGs時代の10タイプ・イノベーション・フレームワーク」（東京財団政策研究所「CSR白書」2020）、「SDGsとダイナミック・ケイパビリティ」（同、2019）他。

メッセージ

前回、川廷さんとは、2019年9月、各国代表がSDGs達成に向けた進捗状況について報告するニューヨーク国連本部でお会いし、SDGsの取り組みについて意見交換させていただきました。あれから2年で世界は激変し、気候変動とパンデミックが作り出す複雑な社会課題に直面しています。本セッションでは、この2年間でのSDGsの役割や道具としての活用方法の変化、また、社会課題の解決に向けた、政府、企業、市民社会による「ソーシャル・イノベーション」の起こし方について、川廷さんの豊富なご経験から学びます。（金田晃一）

分科会1 「農山村はソーシャル・イノベーションの源泉」

SDGs ウエディングケーキモデルでも知られているように、SDGs は自然資本（目標6、13、14、15）がベースになっています。その基盤のうえに、社会、そして経済が位置付けられています。農山村には、この自然資本がふんだんに存在しています。本分科会では、パネリストに滋賀県内を始め全国各地で「ふるさと絵屏風」を広める上田洋平さん、京都の料亭「和久傳」から「和久傳の森」を育て、恵みを活かす工場長の瀧村幸男さん、京都でSDGs プロジェクトを推進するSlow Innovationの野村恭彦さんをお迎えします。世界農業遺産をはじめ、京都や滋賀の里山里海・湖からいかにサステナブルな未来が創り出されようとしているのか、懐かしい未来を探ります。

★スピーカー

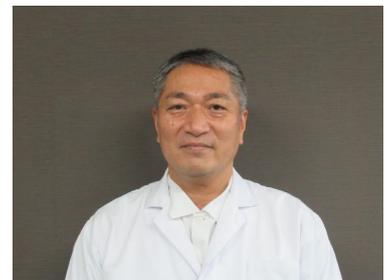
上田洋平（滋賀県立大学地域共生センター講師）

1976年京都府生まれ滋賀県彦根市在住。専門は地域文化学・地域学。1999年滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科卒業。2001年同大学大学院修了。湖東町歴史民俗資料館嘱託職員、滋賀県立大学地域共生センター助教などを経て現職。「ふるさと絵屏風」によるまちづくりの手法を開発し各地での実践を指導する一方、地域と連携した人材育成や「地域共育」プログラムの開発に取り組む。著書『場づくりから始める地域づくり 創発を生むプラットフォームのつくり方』（共著、2021年、学芸出版社）



瀧村幸男（株式会社紫野和久傳 取締役副社長・工場長）

[「和久傳ノ森」](#)は京都の料亭[「和久傳」](#)が創業地である京丹後市に作った商品製造施設および森。2007年より56種およそ3万本を植樹。敷地内には安藤忠雄設計の美術館「森の中の家 安野光雅館」、工房レストラン「wakuden MORI(モーリ)」、菓子や総菜を作る工房がある。また、地元農家の米や野菜など、地元食材を活用。瀧村氏は20年以上同社で料理人として活躍し、現在は調理・商品製造技術開発統括ならびに和久傳ノ森の責任者を務めている。



野村恭彦（Slow Innovation 株式会社代表取締役／金沢工業大学教授）

京都市在住。慶應義塾大学修了後、富士ゼロックス株式会社入社。2012年6月、企業、行政、NPOを横断する社会イノベーションをけん引するため、株式会社フューチャーセッションズを創設。2016年度より、渋谷区に関わる企業・行政・NPO横断のイノベーションプロジェクトである「渋谷をつなげる30人」をスタート。2019年10月1日、地域から市民協働イノベーションを起こすための社会変革活動に集中するため、[Slow Innovation 株式会社](#)を設立。京都市内のSDGs事業に多く関わる。博士（工学）。主な著書「イノベーション・ファシリテーター」「フューチャーセンターをつくらう」（ともにプレジデント社）



★コーディネーター

大和田順子（学会理事・同志社大学総合政策科学研究科教授）

東京生まれ・育ち、京都市在住。宮城大学事業構想学研究科博士後期課程修了（博士・事業構想学）。百貨店、シンクタンク、英国化粧品ブランド等で20数年マーケティングの実務を経て独立。2002年、日本にLOHAS（ロハス）を紹介。全国各地で農業遺産や有機農業を活かした関係人口の創出や持続可能な地域づくりを支援。2014年～19年度まで世界農業遺産等専門家会議委員（農林水産省）、一般財団法人日本水土総合研究所理事 地域力創造アドバイザー（総務省）主な著書『アグリ・コミュニティビジネス』（2011年、学芸出版社）、『新commons論』（共著、中央大学出版部）、『SDGsとまちづくり』（共著、2019年、学文社）他



分科会2「ソーシャル・イノベーション/社会課題解決には Wicked Problem を考えよう！」

SDGs～地域の課題まで、広い範囲で存在する社会課題を明確にして取り組む活動が増えています。そこでは多様な価値観を反映させることが鍵となることから様々な背景を持つアクター(関与者)との対話が欠かせません。一方アクターの「研ぎ澄ませたい思い」も多様に存在することから、対立が生じ課題解決を阻む様子もよく見られます。この状況を Wicked Problem(厄介な問題)に直面しているケースと捉え、対応の最初の一步を皆さんとともに考えたいと思います。

一般に Wicked Problem は、「原因が複雑に絡み合っていて、どのような取り組みを行っても新たな問題が生じさせ、最適解を得ることが困難な問題」とされ、課題を管理し関与し続けることが方策とされます。理数系の問題のように解が存在することを前提とした Tame Problem(飼いなされた問題)への対応とは異なります。課題解決の有識者である松波晴人さん(大阪大学教授)を迎え、コーディネーターの品川、皆さんとの議論を通じて理解を深めましょう！

★スピーカー

松波晴人 (大阪大学共創機構特任教授)

1992年に大阪ガス株式会社入社。米国コーネル大学大学院にて修士号(Master of Science)取得の後、和歌山大学にて博士号(工学)を取得。2005年、行動観察ビジネスを開始。2009年に大阪ガス行動観察研究所を設立。著書に『ビジネスマンのための「行動観察」入門』(講談社)、『行動観察』の基本』(ダイヤモンド社)、寄稿に『ハーバードビジネスレビュー「行動観察×ビッグデータ」特集』がある。近著は『ザ・ファースト・ペンギンス - 新しい価値を生む方法論』(講談社)



★コーディネーター

品川啓介 (学会理事・立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科教授)

富士通株式会社(研究開発職)、立教大学ビジネスデザイン研究科(教授)などを経て現在、立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科教授、日本ソーシャル・イノベーション学会理事。博士(工学、名古屋大学)博士(技術経営、立命館大学)。主な研究に『科学知識の爆発とプロセスイノベーション』(研究技術計画2014)、『Does path dependency in scientific community shape technological uncertainty?』(International Journal of Japan Association for Management Systems 2019)がある。最近『Creative thinking for deriving fruitful research themes of SDGs』(ISPIM Connects Global 2020)、『Are the SDGs challenges to tame problems?』(The ISPIM Innovation Conference2021)などソーシャル・イノベーション研究に注力している。



分科会3 「地域共生社会開発の実践—メンタル不調者の就労と働き方から考える多様性と共生社会」

地域共生社会開発（CBID: Community Based Inclusive Development）とは、2004年以降、ILO・UNESCO・WHOの3機関が合同で提唱している機会均等と社会的包摂のための戦略であり、その目指すところです。本セッションでは、身体、知的、精神の障害三分類の中でも特に精神障害分野に着目します。障害者手帳の有無にかかわらず働く世代のほぼすべての人が困難を抱えるリスクを有する障害分野です。メンタル不調と“働く”を両立させやすい社会の実現を目指すとき、求められるイノベーションとは？ “働く”に向けての支援と、“働く”を提供する企業への働きかけ、の二つの視点から、メンタル不調者の“働く”をめぐる未来のありたい姿を展望できればと思います。＊質疑応答で発言される際を除き、音声ミュートでのご参加をお願いします。

★スピーカー

「うつ病からの復職を支える『Little Plus』のリワーク」

青井 洸（うつ病特化型職場復帰支援施設 Little Plus (リトルプラス) 代表)

1984年、徳島県生まれ岡山県玉野市在住。公認心理師、臨床心理士、精神保健福祉士。川崎医療福祉大学大学院を修了後、県教育委員会、精神科病院等に勤務。2015年にうつ病に特化した職場復帰支援施設 Little Plus を立ち上げ、同代表。2021年には、うつ病以外の疾患または引きこもりの支援事業 Breath を開始。障害者就労支援事業を行うNPO法人ここ・からワークスおかやま理事を兼任。専門は個人・集団の認知行動療法、ストレスマネジメント。各種職能団体や企業等でうつ病や精神疾患についての啓発活動を実施し、精神疾患の方が職場復帰しやすく、定着しやすい社会の実現を目指し活動中。モットーは「人のために」。好きな言葉は「永遠の初心者」。趣味は写真撮影。



「精神障害のためのダイバーシティ・マネジメント

SELECTION(SDMS)—企業による障害者雇用をイノベーションする新しい表彰制度」

前田裕生（株式会社ミライワーク代表取締役 SDMS（精神障害のためのダイバーシティ・マネジメント SELECTION）実行委員会 実行委員長

2004年3月中央大学経営学部卒業後、2004年4月日本興亜損害保険株式会社（現：損害保険ジャパン株式会社）に入社。営業、営業推進部門での16年間のキャリアを積み、メンタルヘルス不調者に向けられる誤解や偏見に疑問を感じ、メンタルヘルス不調者向けの復職・再就職支援のための「株式会社ミライワーク」（障害福祉サービス）を2020年5月に創業、代表取締役に就任。2020年8月には、国内初の精神障害者雇用の特化した企業認定・表彰制



度「SDMS」を立ち上げ。2021年3月県立広島大学大学院経営管理研究科MBA修了。令和2年広島県創業者表彰受賞。誰もがいきいきと働くことができる社会作りを目指している。

★コメンテーター

関根千佳（学会理事・株式会社ユーディット会長 同志社大学大学院総合政策研究科客員教授）

多様な人が共に生きるユニバーサルな社会の在り方を研究。障害者や介護離職者など全員がテレワークで働く株式会社ユーディット(情報のユニバーサルデザイン研究所)会長兼シニアフェロー。放送大学・美作大学客員教授。同志社大学大学院総合政策研究科客員教授（ソーシャル・イノベーションコース）。東京女子大・関西学院大非常勤講師。内閣府・総務省・国交省・経済産業省を始め、多くの自治体や団体でUDやITに関する委員や理事を歴任。著書に「『誰でも社会』へ」（岩波書店）、「スローなユビキタスライフ」（地湧社）、「ユニバーサルデザインのちから」（生産性出版）、「情報社会のユニバーサルデザイン」（共著：放送大学教育振興会）、「シニアよ、ITを持って地域に戻ろう」（共著：NTT出版）など。



★コーディネーター

露木真也子（学会理事・県立広島大学大学院経営管理研究科教授）

同志社大学文学部英文学科卒。東京都公務員、日本IBM、日本電子出版協会、科学技術政策シンクタンク「イノベーション戦略会議」など勤務を経て、金沢工業大学大学院知的創造システム専攻修了。（独）産業技術総合研究所ベンチャー開発戦略研究センター研究員、（財）政策科学研究所 主任研究員、（株）公共経営・社会戦略研究所 主任研究員、東京工業大学大学院社会工学専攻「国際的社会起業家養成プログラム」コーディネーター、東京工業大学CBEC（チーム志向越境型アントレプレナー育成）プログラム 特任教授など歴任。2016年4月より県立広島大学大学院経営管理研究科 専任教員（ビジネス・リーダーシップ専攻）。同年7月よりNPO 法人国際社会起業サポートセンター 理事長。修士（工学）。博士（学術）。



分科会 4

「ファシリテーションで教育が変わる！地域が変わる！」

参加・体験・相互作用を重視した学びや創造の場である「ワークショップ」と、そうした主体的な学びや創造を促進する「ファシリテーション」の第一人者である中野民夫さんと谷口知弘さんをゲストにお招きします。お二人がそれぞれ大学教育や地域づくりの現場で、どのようにファシリテーションを用いて当事者の力を引き出し、「やさしい革命」を現場で創ってこられたのか、語っていただきます。そしてお二人の豊富な実践事例をもとに、どのようにファシリテーションが教育や地域に変化をもたらし、草の根からのソーシャルイノベーションがそこから生み出されていくのか、参加者のみなさんとともに対話し、そのポイントを探っていきます。

★スピーカー

中野民夫（東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院 教授）

1957年東京生まれ。東京大学文学部宗教学科を卒業し株式会社博報堂に入社、大阪支社営業職から始める。1989年に休職留学し、カリフォルニア統合学研究所(CIIS)の組織開発・変革学科修士課程を修了。以後、会社勤めの傍ら、人と人・自然・自分自身・社会をつなぎ直すワークショップや、参加型の場作りの技法であるファシリテーションの講座を多様な分野で実践。会社の仕事では、愛知万博で持続可能性をコンセプトにした「地球市民村」(NGO Global Village) など、社会テーマ系の仕事を手がける。2012年に博報堂を早期退職、同志社大学を経て、2015年秋から東工大でリベラルアーツ教育に参加型の授業で取り組んでいる。著書に『学び合う場のつくり方』『ワークショップ』『ファシリテーション革命』（共に岩波書店）、『みんなの楽しい修行』（春秋社）、共著に『ファシリテーションで大学が変わる』（ナカニシヤ出版) など多数



谷口知弘（学会理事・福知山公立大学 地域経営学部地域経営学科 教授）

1964年生まれ、煎茶発祥の里京都府宇治田原町湯屋谷出身。工業デザイナー、大学教員（京都工芸繊維大学 1991.06-2002.03、立命館大学 2002.04-2007.03、同志社大学 2007.04-2012.03）、まちづくりコンサルタントを経て2016年より現職。四半世紀程前、瀬戸内の港町播州赤穂にて市民参加のサイン計画を企画・実践して以来、ワークショップの専門家として、嵐山さくらトイレ、鴨川公園出町地区整備事業、京都市未来まちづくり100人委員会など市民参加のまちづくりプロジェクトに参画。まちづくりに市民が関わる協働型デザインプロセスの開発に取り組む。「Tシャツからまちづくりまで」をキャッチフレーズに学生や地域の人々と共に研究・実践中。編著書に「はじめてのファシリテーション」（昭和堂）



★コーディネーター

佐野 淳也（学会理事・大阪成蹊大学経営学部経営学科公共政策コース 准教授）

1971年、徳島市生まれ。一橋大学大学院社会学研究科修了、法政大学大学院公共政策研究科博士後期課程満期退学、博士（ソーシャル・イノベーション）

阪神淡路大震災での被災地支援NPO、インド現地NGOでのインターン、国際環境NGOスタッフ、東京学芸大学環境学習研究員、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科准教授、徳島大学地域創生センター助教、同志社大学政策学部准教授など経て現職。「しあわせな人口減少社会のデザイン」と「内発的地域イノベーションのエコシステム」が最近の研究テーマ。日本ソーシャル・イノベーション学会理事。共著に「はじめてのファシリテーション」（昭和堂）他。



国際交流セッション「ソーシャル・イノベーションの実践と教育：日本とスコットランドから考える」

新型コロナウイルス以後の世界において、ソーシャル・イノベーションの政策や実践、さらにそれを支える人材育成は、どのような方向に向かうのでしょうか。本セッションでは英国の中でも比較的に高齢化が進み、社会的企業等による福祉サービスの提供等の実践や人材育成、そしてそれを支援するための政策枠組が進んでいるスコットランドと、日本の知見を交換し、今後の協力の可能性についても議論するものです。

*本セッションでは英語字幕ならびに英→日、日→英通訳（逐次）がつく予定です。

【参加者の方へお願い】 発言の際にはカメラをオンにしてください。

★スピーカー

「スコットランドにおけるソーシャル・イノベーションの実践と政策（仮）」
フィオナ・ヘンダーソン（グラスゴー・カレドニアン大学ユヌスセンター リサーチ・フェロー）

Dr. Fiona Henderson

Research Fellow, Yunus Centre for Social Business and Health
Glasgow Caledonian University

スコットランドのグラスゴー・カレドニアン大学は、ソーシャル・イノベーション研究、更にはラテンアメリカや東南アジアのSI研究大学ネットワークの中心的な存在である。ヘンダーソン氏は主にスコットランドの非都市部における社会的企業の活動と、それが地域コミュニティに与える影響について研究を行っている。



<https://www.gcu.ac.uk/yunuscentre/staff/academicandresearchstaff/fionahenderson/>

「スコットランドにおけるソーシャル・イノベーターの教育（仮）」
フランセス・マッキネス（グラスゴー・カレドニアン大学上級講師）

Ms. Frances MacInnes

Senior Lecturer, Glasgow Caledonian University

グラスゴー・カレドニアン大学の全学生と教職員が受講可能な社会イノベーション入門コースの主任を務める。同コースでは受講者が自らの社会イノベーション理解と、どのような変化をもたらしたいかについて映像を作成する「デジタル・ストーリーズ」手法を取り入れている。本報告ではその経験を中心にスコットランドにおけるソーシャル・イノベーター教育について説明する。



<https://www.gcu.ac.uk/hls/staff/francesmacinnes/>

「日本におけるソーシャル・イノベーション政策と実践の展望」 新川 達郎（学会代表理事・同志社大学名誉教授）

専門は行政学、地方自治論、公共政策論。地域における研究や政策提言等の活動も行う。同志社大学大学院総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーション研究コースを設置し、ソーシャル・イノベーション入門、ソーシャル・イノベーションの理論と技法、ソーシャル・イノベーション研究プロジェクトなどの科目を担当してきた。日本ソーシャル・イノベーション学会を2018年に設立し共同代表を務めている。



「日本におけるソーシャル・イノベーション教育の現状」 村上 紗央里（同志社大学研究開発推進機構助手）

専門は公共政策学教育、シティズンシップ教育、ソーシャル・イノベーションのためのアクション・リサーチとしての環境教育等。2020年3月同志社大学大学院総合政策科学研究科博士後期課程修了、博士（政策科学）



★コメンテーター

中島 智人（産業能率大学経営学部教授）

NPO・社会的企業（ソーシャルビジネス）について、日本とイギリスを中心に研究。NPO・社会的企業の制度や基盤の構築、NPO・社会的企業と国・自治体との協働にも関心。近年は、社会起業家の支援にも力を入れている。



★コーディネーター

青尾 謙（学会理事・岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授）

専門は国内外のソーシャル・イノベーションの理論と事例、地域研究、ウェルビーイング等。金融機関、国際協力NGO、国際機関、助成財団勤務を経て2018年より現職。2019年3月筑波大学博士（社会科学）



日本ソーシャル・イノベーション学会第3回年次大会実行委員会
委員長:西村仁志(広島修道大学)
委員:露木真也子(県立広島大学)

日本ソーシャル・イノベーション学会第3回年次大会 プログラム・発表要旨集

発行日:2021年11月28日

発行:日本ソーシャル・イノベーション学会(第3回大会事務局)

Japan Society for Social Innovation

〒731-3195 広島県広島市安佐南区大塚東1丁目1-1

広島修道大学人間環境学部 西村仁志研究室

E-mail:hiroshima@si-hiroshima.net